

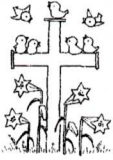
やすらぎ

日本聖公会 九州教区 福岡聖パウロ教会
〒810-0045 福岡市中央区草香江 2-9-22
TEL 092-751-0097 FAX 092-751-9916
発行人 司祭 バルナバ 牛島幹夫

252号

2020.4.28 発行

YASURAGI



「どうしたのですか？」と問いかけるイエスを信じて

司祭 バルナバ 牛島 幹夫

イースターおめでとうございます。

復活の喜びを共に集って祝えないという思いもかけない日々を過ごすことになりました。教会に連なるみなさんがそれぞれの場所で、イースターを祝っていたことと思います。それぞれの祈りは復活のキリストによって一つに結ばれていると信じています。

さて、4月26日復活節第3主日の福音として、ルカによる福音書24章が読みました。エマオへ向かう二人の弟子のところへイエスが現れ道連れとなる話です。とても有名な話ですから、内容を細かに伝えることはないとします。その中で特に印象に残ったところについて書かせていただきます。

復活の日の夕方、二人の弟子達がエマオへ向かう途上でイエスが道連れとなります。しかし、二人の弟子には、この共に歩む方がイエスだと分かりません。このとき、イエスは二人に「何を話しているのですか？」「どうしたのですか？」と問いかけました。私は、イエスがこの二人に先がけて、「どうしたのですか？」と問いかけていることに心動かされました。この二人が何を話しているのか、イエスには当然分かっているはずなのです。しかし、イエスは不安の中にいる二人に「どうしたのですか？」と問いかけてくれます。

福音書は二人のうちの一人名についてはクレオパという名前を伝えていますが、もう一人の名前は分かりません。私は、このもう一人は、イエスを信じるわたしやあなたのことだと思っています。私たちが不安の中を歩むとき、気づかないけれどもイエスが共に歩み、「どうしたのですか？」と問いかけてくれることを、この物語が伝えているのだと感じています。

不安や苦しみの中において祈るとき、祈りが聞かれているか全く手応えを感じないことがあります。イエスが一つ一つ相づちを打ってくれるわけではありません。しかし、エマオ途上で二人の弟子とイエスのやりとりは、私たちが祈るよりも先にイエスが私たちに「どうしたのですか？」と問いかけ、耳を澄ませてくださっていることを教えてくれます。

コロナウイルス感染症の感染拡大の中であって、初めての体験が続く日々不安を感じている人がたくさんいます。私もそうです。しかし、そのような中であって、イエスは私たちの不安な思いに耳を澄ませてくださっているのです。

共に歩むイエスを信頼して、今このときこそ祈りを大切に過ごして参りましょう。